

2018 年度看護学部授業評価集計結果

看護学部教務委員会
教育評価・研修部会

1. 概要

岩手医科大学看護学部では、看護学教育の合理的・効果的な実施と教育環境の経時的・合目的改善と外部評価に耐えうる教育の自主的評価の確立を目的として、看護学部第2学年以降に開講する科目ならびに基礎看護学実習Ⅰを対象とした学生による授業評価を実施した。

授業評価は、原則として全ての授業科目を対象とする「学生による授業科目全体に関する評価」、1科目3回以上授業を担当する教員を対象とする「学生による教員に関する評価」ならびに全ての臨地実習科目を対象とする「学生による臨地実習に関する評価」の3項目で実施した。

授業評価実施後は、当該科目における次学期以降の授業計画や学生指導を見据えた振り返りとして、各実施主体者から看護学部長へ「授業に関する自己点検票」を提出したほか、当該年度に実施した各授業評価における上位3科目および3教員については、当該実施主体者の了承を得たのち表彰し、学生へ公表した。

なお、基礎看護学実習Ⅰ以外の看護学部第1学年で開講した科目については、本学教養教育センターによる授業評価を実施した。

2. 実施状況

(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」

各科目責任者が「学生による授業科目全体に関する評価」の実施主体者となり、2018年度に看護学部第2学年で開講した全ての授業科目で実施した。

No.	学年/学期	科目名	授業形態
1	第2学年/前期	薬理学	講義
2	第2学年/前期	臨床心理学	講義
3	第2学年/前期	疾病論Ⅰ	講義
4	第2学年/前期	疾病論Ⅱ	講義
5	第2学年/前期	基礎看護学Ⅴ	演習
6	第2学年/前期	成人看護学概論	講義
7	第2学年/前期	成人看護学方法論Ⅰ	講義
8	第2学年/前期	成人看護学方法論Ⅱ	講義
9	第2学年/前期	成人看護学演習Ⅰ	演習
10	第2学年/前期	老年看護学概論	講義

11	第2学年/前期	小児看護学概論	講義
12	第2学年/前期	母性看護学概論	講義
13	第2学年/前期	精神看護学概論	講義
14	第2学年/前期	在宅看護学概論	講義
15	第2学年/前期	国際看護学	講義
16	第2学年/前期	看護研究入門	講義
17	第2学年/前期	医療英語	講義
18	第2学年/後期	疾病論Ⅲ	講義
19	第2学年/後期	疾病論Ⅳ	講義
20	第2学年/後期	老年看護方法論	講義
21	第2学年/後期	小児看護方法論	講義
22	第2学年/後期	母性看護方法論	講義
23	第2学年/後期	精神看護方法論	講義
24	第2学年/後期	在宅看護方法論	講義
25	第2学年/後期	医療安全論	講義
26	第2学年/後期	緩和ケア論	講義
27	第2学年/後期	日本国憲法	講義

※全27科目（科目区分順）

(2) 「学生による教員に関する評価」

各教員が「学生による教員に関する評価」の実施主体者となり、2018年度に看護学部第2学年で開講した授業科目において、33名の教員が実施した。

<内訳> 看護学部専任教員・・・・・・・・・・23名
看護学部以外の本学専任教員・・・・・・・・7名
非常勤講師・・・・・・・・・・・・・・・・3名

(3) 「学生による臨地実習に関する評価」

各科目責任者が「学生による臨地実習に関する評価」の実施主体者となり、2018年度に看護学部第1・2学年で開講した全ての臨地実習科目で実施した。

No.	学年/学期	科目名	授業形態
1	第1学年/後期	基礎看護学実習Ⅰ	実習
2	第2学年/後期	基礎看護学実習Ⅱ	実習

3. 回答および集計方法

学生は、授業評価の各設問（マークシート形式）および自由記載欄について、以下の5段階および記述により無記名で回答を行い、記入後の評価用紙は、学生個々が教室内の回収箱

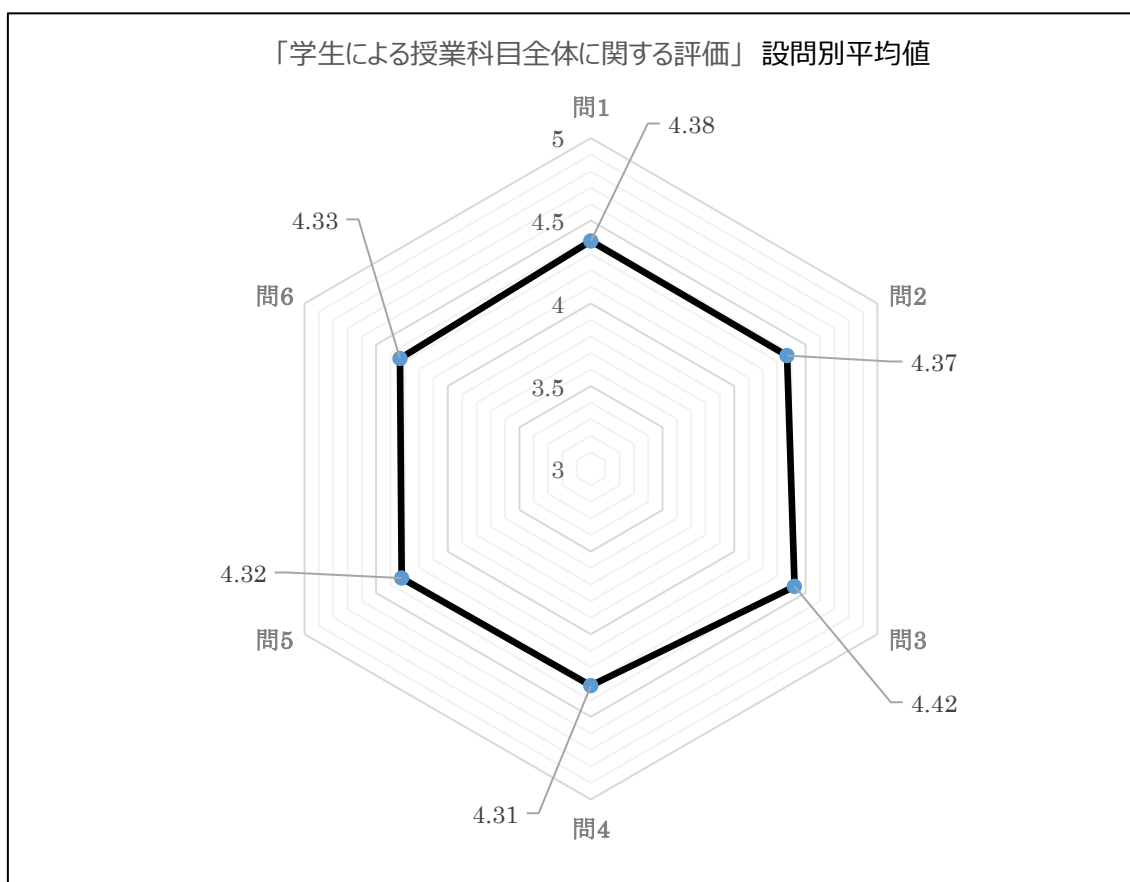
に直接提出した。教務課は、提出された評価用紙を回収し、設問項目毎の単純集計ならびに自由記載欄のコメントの転記を行い、各実施主体者に集計結果を通知した。

1	2	3	4	5
全く思わない 非常に悪い	あまり思わない ←	どちらともいえない	やや思う →	非常に思う 非常に良い

4. 集計結果

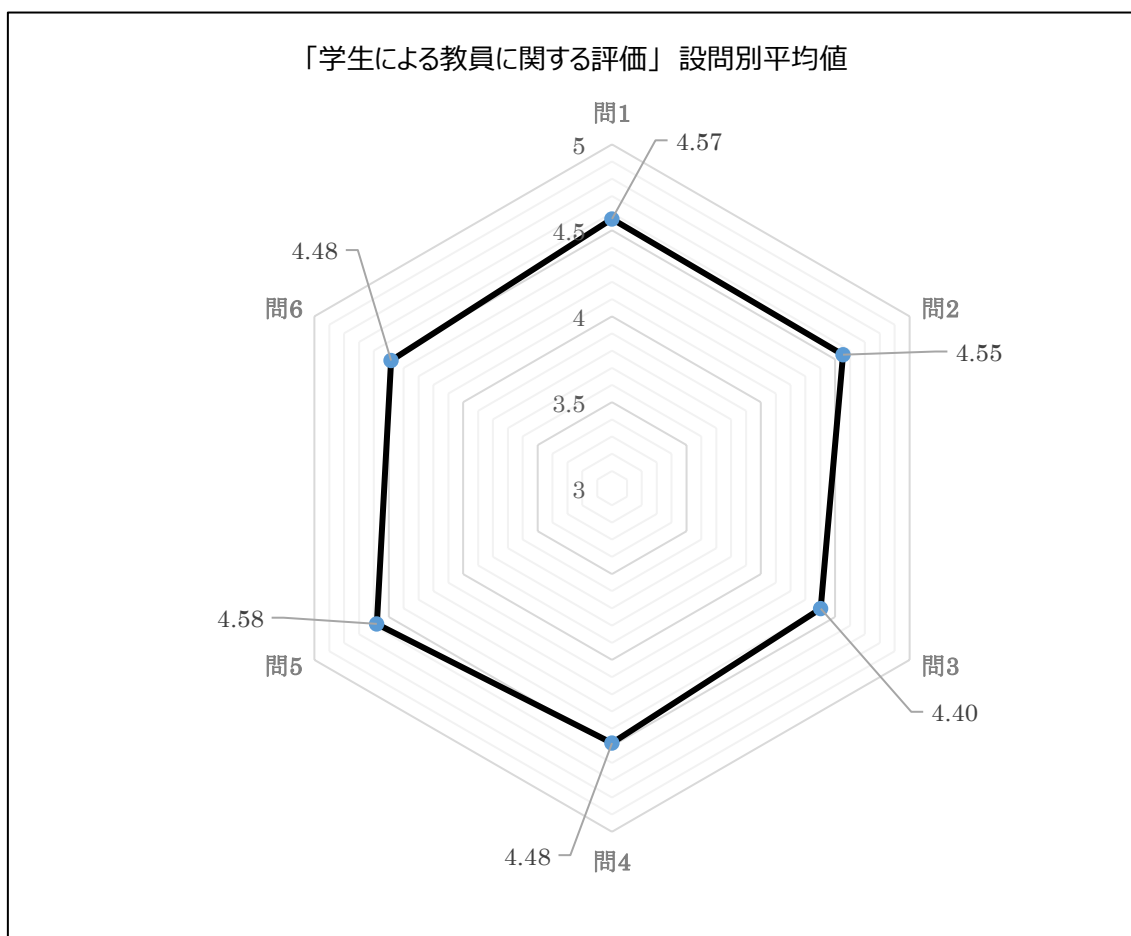
(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」(全27科目)

	設問	平均値	SD
問1	授業は理解しやすいように順序立てて組み立てられていた。	4.38	0.28
問2	教材(教科書・配付資料等)は適切であった。	4.37	0.29
問3	シラバスに記載された授業内容・到達目標は適切であった。	4.42	0.26
問4	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.31	0.32
問5	自学自修の時間を確保できる授業スケジュール(授業の間隔、組み立て等)であった。	4.32	0.31
問6	科目の総合評価を5段階(非常に悪い1~5非常に良い)で示してください。	4.33	0.32



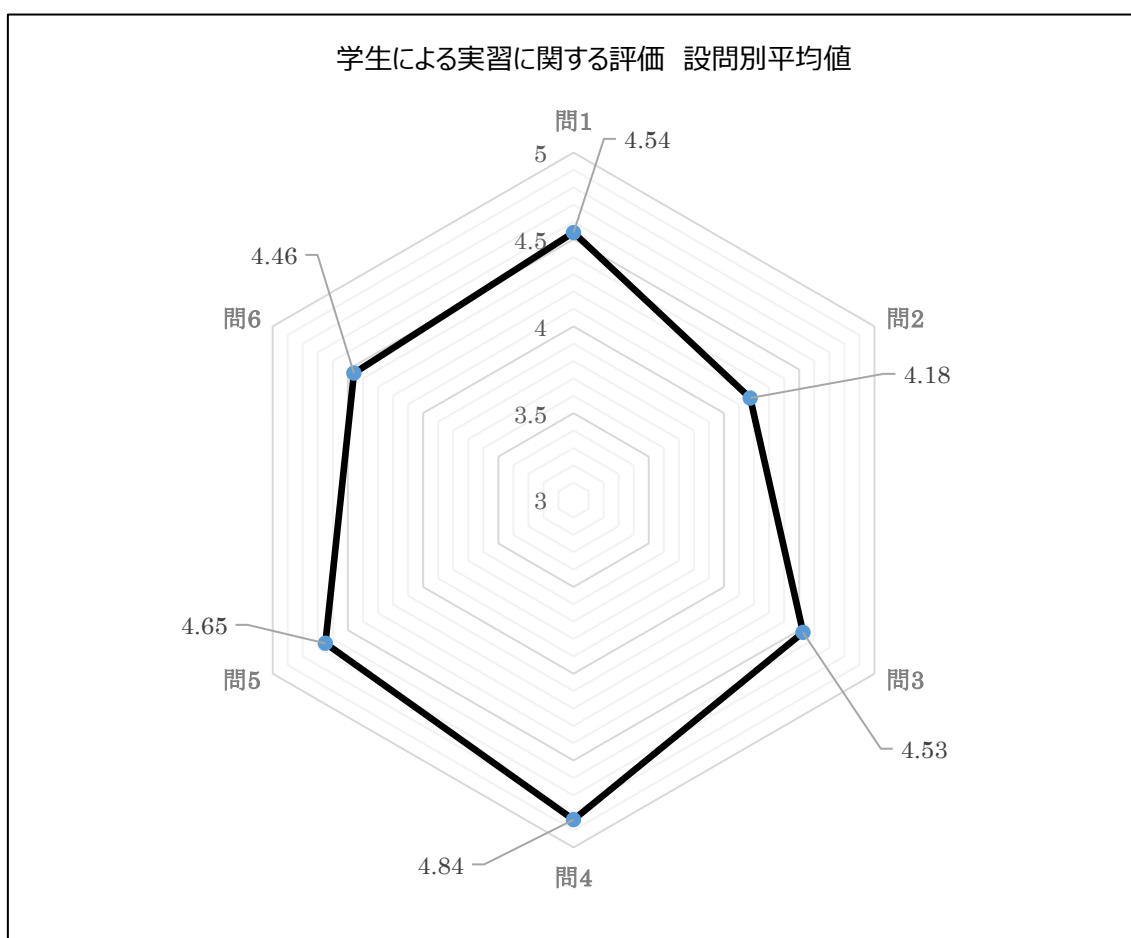
(2) 「学生による教員に関する評価」(全33教員)

	設問	平均値	SD
問1	授業はシラバスに沿ってよく準備されていた。	4.57	0.24
問2	授業は時間(開始・終了時刻)通りに行われた。	4.55	0.27
問3	授業の内容(分量・難易度)は適切であった。	4.40	0.36
問4	質問の機会(授業時間内外問わず)が設けられていた。	4.48	0.30
問5	授業に対する教員の熱意が感じられた。	4.58	0.26
問6	授業に対する教員の総合評価を5段階(非常に悪い1~5非常に良い)で示してください。	4.48	0.34



(3) 「学生による臨地実習に関する評価」(全2科目)

	設問	平均値	SD
問1	実習を円滑に行うために、オリエンテーションは役立った。	4.54	0.01
問2	自学自修の時間を確保できる実習スケジュールであった。	4.18	0.06
問3	シラバスや実習要項に記載された内容・到達目標は適切であった。	4.53	0.09
問4	グループの学生同士、協力して学修できた。	4.84	0.00
問5	看護職を目指す意欲が刺激された。	4.65	0.08
問6	実習の総合評価を5段階(非常に悪い1～5非常に良い)で示してください。	4.46	0.00



※看護学部は、2017年度の開設であるため、本結果が第2学年以降の授業評価を実施した初年度となることから、数値データの経年比較については、次年度以降に実施予定である。

5. 各授業評価における上位3科目および上位3教員

(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」

順位	学年/学期	科目名	授業形態
1	第2学年/前期	小児看護学概論	講義
2	第2学年/前期	国際看護学	講義
3	第2学年/前期	基礎看護学V	演習

(2) 「学生による教員に関する評価」

順位	教員名	担当科目
1	野里 同	基礎看護学V
2	小松 恵	国際看護学
3	遊田 由希子	母性看護方法論

(3) 「学生による臨地実習に関する評価」

当該授業評価の上位3科目については、学年進行に伴い各専門領域の臨地実習が開講した後、公表することとしている。

6. その他

2018年度に実施した授業評価の結果に基づき、高評価であった教員による授業の取り組み事例等を共有するとともに、学外有識者からのミニレクチャーを通じて、授業評価結果の活用方法等に関する理解を深め、学部全体として授業改善に取り組むことを目的としたFDを以下のとおり開催した。

- ・日時 2019年4月24日(水) 15:00~16:30
- ・会場 矢巾キャンパス 東研究棟1階 会議室
- ・テーマ 学生による授業評価結果を活用した授業改善事例報告・授業設計方法
- ・参加者 看護学部教員28名

以上